

腹部大動脈瘤・総腸骨動脈瘤手術後に残存する軽度内腸骨動脈拡張の経時的変化

1. 研究の対象

2014年1月1日から2024年12月31日までに腹部大動脈瘤・総腸骨動脈瘤に対し、当院で人工血管置換術、腹部大動脈ステントグラフト内挿術を受けられた方および、術後に下記の既存試料・情報の提供のみを行う機関にてCTを撮影された方。

2. 研究目的・方法

腹部大動脈瘤および総腸骨動脈瘤については、治療方針決定のためのガイドラインにより、手術適応となる瘤径が明確に示されています。一方、総腸骨動脈から分岐する内腸骨動脈については、軽度に拡張している場合の取り扱いに関する明確な基準は存在しません。

腹部大動脈瘤または総腸骨動脈瘤の手術時に、内腸骨動脈が軽度に拡張している症例は少なくなく、同時に治療すべきか、あるいは温存して経過観察とするかについては、臨床現場で判断に迷うことが多いのが現状です。

本研究では、当院において上記疾患に対して手術を受けられた方のうち、術前より内腸骨動脈に軽度拡張を認めた症例を対象に、術前CTと術後最新CTを比較し、内腸骨動脈がどの程度の期間で、どの程度拡大するのかを後ろ向きに解析します。

本研究により、これまで明確な基準がなかった内腸骨動脈の取り扱いに関して、将来的な治療方針決定の一助となる知見が得られることが期待されます。

研究期間：研究実施許可日～2029年03月31日

試料・情報の利用及び提供開始予定日：2026年5月1日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

疾患名、性別、年齢、体格、既往歴、周術期データ（CTデータ、採血データ、手術時間、術中使用デバイス等）、術後合併症、外来での術後CTフォローデータ等を用い、解析いたします。

特に術後のCT撮影に関しては当院以外、県内外でご自宅の近くの病院において撮影されている方もいらっしゃいます。各施設でも実施許可の手続きを行った上で、最新のCTデータを提供いただき、本解析に用います。

【既存試料・情報の提供のみを行う機関】

秋田厚生医療センター 柴田 聡院長
秋田赤十字病院 河合 秀樹院長
北秋田市民病院 相澤 俊朗院長
雄勝中央病院 小松田 敦院長
大曲厚生医療センター 三浦 康院長
市立角館総合病院 伊藤 良正院長
市立大森病院 小野 剛院長
JCHO 秋田病院 大塚 博徳院長
能代山本医師会病院 加藤 裕治郎院長
市立秋田総合病院 佐藤 勤院長
平鹿総合病院 堀口 聡院長
由利組合総合病院 軽部 彰宏院長

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さん、もしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

秋田大学大学院医学系研究科 心臓血管外科学講座 助教 桐生健太郎（研究責任者）
〒010-8543 秋田県秋田市広面字蓮沼 44-2
電話番号：018-884-6135

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称：

国立大学法人秋田大学大学院医学系研究科
研究科長 羽瀨 友則